



The Door Step to Japan

vol.38

2017年 春夏号

日本の扉
浅草
浅草・槐の会
ASAKUSA

平成二十九年丁丙

平成二十九年丁申

一月 (睡月) 初詣 浅草名所七福神もろて	二月 (如月) 三日 節分の日 八日 針供養	三月 (弥生) 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞	四月 (卯月) 八日 釈尊誕生日(花まつり) 九日 白鷺の舞 十五日 浅草流鏑馬 十六日 早慶レカッタ	五月 (皐月) 五日 宝の舞 十九~二十一日 三社祭 二十七、二十八日 お富士様の植木市	六月 (水無月) 二十四・二十五日 お富士様の植木市
七月 (文月) 九、十日 四万六千日(ほおずき市) 二十九日 隅田山花火大会	八月 (葉月) 十五日 万霊燈籠供養会 二十六日 浅草サンバカーニバル	九月 (長月) 上旬 台東薪能 二十三日 彼岸会	十月 (神無月) 十八日 金龍の舞・ 菊供養	十一月 (霜月) 三日 白鷺の舞 六、十八、三十日 西の市 十五日 七五三	十二月 (師走) 十七、十九日 歳の市(羽子板市) 三十一日 除夜の鐘(弁天山)

浅草を彩る3月~8月の代表的催事

5月 皋月

「びんざさら舞」

● 5月19日

浅草付近の宮戸川で示現された観音像は、現在の駒形橋付近から陸にあがられ、槐の木の切り株の上に安置されました。そのおり、草庵(藜堂(あかざどう))を作った十人の千束田圃の百姓衆が、草庵の完成を祝って踊ったのが「びんざさら」の始まりといわれています。三社祭奉納の「びんざさら舞」は、田楽舞(ささら舞)と獅子舞の二つの舞が備わっている全国でもめずらしいものです。



三社祭

● 5月19日~21日

浅草神社は、浅草寺観音像を浅草付近(宮戸川)から網得した漁師、檜前浜成(ひのくまはまなり)、竹成(たけなり)と、土地の識者、土師中知(はじのなかとも)の三人を祀るところから、古くは三社権現と称されていました。三社祭の名はここからきています。三社祭は神輿渡御が有名で、浅草神社の氏子町会四十四ヶ町の神輿勢揃いが土曜日の午後1時に浅草寺境内で行われ、浅草が祭り一色に染まります。



5月 三社祭
写真協力：
台東区写真連盟
青山真平氏

6月 水無月

お富士様の植木市

● 5月27日・28日、6月24日・25日

浅間神社(俗にお富士様)の縁日で、元禄の頃に富士山信仰から始まったものです。当初は、6月1日の山開きに合わせて5月晦日・6月1日の両日でしたが、明治以降山開きが7月1日になったことから6月晦日と7月1日も合わせた四日間のご縁日となり、近年になって5月と6月の最終土・日曜日に行われるようになりました。柳通りと神社を中心に約350軒の植木屋と200軒の売店が出ますが、この界隈は花柳界と呼ばれる地域で浴衣姿の家族づれにまじって粋な芸者衆の姿を見かけることもあります。



7月 文月

四万六千日《ほおずき市》

● 7月9日・10日

下町の風物詩、夏の草市(植木市、朝顔市、ほおずき市)の一つで、この日に浅草寺にお参りすると特にご利益があるといわれる功德日でもあることから、境内は正月、三社祭に次ぐ人手となります。



隅田川花火大会

● 7月29日

享保年間に始まり、両国の川開きとして250年の伝統を保ってきた花火大会ですが、交通その他の事情により昭和36年を最後に中断しました。それが昭和53年に隅田川花火大会として復活。現在の会場は今戸付近と駒形橋-厩橋間との2会場です。夏の夜空を彩る浅草の風物詩となっています。



7月 隅田川花火大会



4月 早慶レガッタ
写真協力：
台東区写真連盟
田村和夫氏

8月 葉月

万霊灯籠供養会

● 8月15日

8月15日の「終戦記念日」に営まれるこの法会は、太平洋戦争で亡くなった戦災者供養のため行われ、現在は幅広くお盆の先祖供養のためにも営まれています。本堂内での法要後、本堂裏の境内地をかがり火で結界し、不動尊のご真言を唱える中、灯籠をお焚き上げします。

浅草サンバカーニバル

● 8月26日

本場のブラジル・リオから、その年の優勝チームを招待して熱狂の夜を過ごすのが、真夏の夜の夢、浅草サンバカーニバルです。お祭り好きで浅草を愛しリオ通であった故・伴淳三郎さんと前台東区長内山栄一氏が意気投合して企画したものです。浅草商店連合会の有志を中心に昭和56年8月29日に第1回浅草サンバカーニバルを成功させました。以後、毎年8月の最終土曜日に開催され、浅草の新しい息吹を示す祭典として定着しています。



8月 浅草サンバカーニバル

[そのほかの行事]

- ◆ 3月18日 浅草観音示現会金龍の舞
- ◆ 3月19日~4月9日 隅田公園「桜まつり」
- ◆ 4月9日 白鷺の舞
- ◆ 4月15日 浅草流鏝馬
- ◆ 4月16日 早慶レガッタ
- ◆ 4月29日 泣き相撲
- ◆ 7月1日 浅草富士浅間神社「例大祭」(山開き)

第二回

「浅草寺の歴史
後編」

浅草寺子屋

講師
荒井修

この記事は2010年に浅草槐の会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主、荒井修氏。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。江戸や浅草の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、この記事企画しました

浅草に農業の舞があって
漁業の舞が無い理由

ところで先ほど話した「駒形堂（こまんどう）」（図1）という建物がありますね。浅草寺の観音様が隅田川から引き揚げられた場所で、拾い上げたのは檜前浜成・竹成（ひのくまのはまなり・たけなり）という漁師の兄弟でした。三社祭では今でも農業の芸能である「びんざさらの舞」というのが舞われていて…前の話で出てきた、十人の童子の子孫たちが舞っているという田楽の舞ですね。それに対して漁業の芸能はあるかっていうと、これが無いんです。なぜ無いかっていうと、観音様が引き揚げられた尊い場所であるために、生類

図1：駒形橋のたもとにある駒形堂



憐みの令以降、駒形堂のそこから上流は漁業が禁止になっちゃったんです。殺生禁断です。今も駒形堂の敷地内に、そのことを示した戒殺碑（図2）と言われる碑がありますから、一度見てみるといいと思います。

まあ、海苔なんかは生き物じゃないんで採ってもいいんでしょうけどね。この辺りで昔採れたのが浅草海苔です。だけど殺生禁断になってから浅草の漁師はみんな大森海岸に行っちゃった。そういう縁があるんで、昔の三社祭では大森の漁師たちにいろいろ協力してもらってたんです。この先、三社祭の話をする時には、漁師が出てきますから、覚えておいて下さい。

親戚同士で戦争
昔の人は大変だった

さて話が横道に逸れましたが、推古天皇36（628）年に観音様が示現して創建以来、浅草寺というお寺は信者をどんどん増やしてきました。しばらく経つと、平安の中期に日本中を暴れまわった平将門という人が出てきます。神田明神のご祭神でもありますね。その将門のおとっつあん、平良将という人も大変な人です。千葉県の下総の国佐倉の人ですな、長嶋（茂雄）さんもそうじゃなかったかな？

良将は戦が好きで、親戚同士でよくけんかをするんですよ。相手は平良兼、その息子が浅草寺に縁の深い公雅（きんまさ）という人です。平家同士でよく戦をやっている、公雅は一度は将門の奥さんと子供を連れ去ったんです。ただ公雅という人は心優しい人で、この2人を解放してやるんです。お父さん同士が揉めるんですけど、良兼が亡くなった時に、公雅はどっちの味方もしない、中立でした。

けどもそのうちに将門がどんどん暴れまくって、天慶2（939）年には新皇を自称して、新しい天皇ですな、朝廷に対して反乱を起こすんです。そうなるかと将門の乱を鎮圧するためにいろんな人が呼び集められました。将門は藤原氏の家来になってもいいと言っていたのだけれどうまくいなくて。それで将門をどうにかしろと天命が下って、藤原氏、公雅も含め大勢が、将門追討に乗り出します。そんな風にこの時代は、親戚といっても大変なんです。

願いが叶ったお礼に
堂塔伽藍を全部寄進

この追討に成功して公雅は安房の太守、今の千葉県知事みたいなものになります。この人が一度京都の朝廷に戻って来いと言われて、急いで京へ向かう途中、浅草で寄り道をするんです。京葉道路を飛ばして、または高速道路だと錦糸町のところで降りて浅草まで来るような（笑）。公雅は観音信仰をしていました。右へ行くとあの有名な浅草の観音様があるということでお参りに行ったんです。そして、できることなら次の赴任先は武蔵の国にしてほしいと願ったところ、1年足らずのうちに朝廷から武蔵の国を守りなさいといわれる。あなうれしや、ということですね。それくらい観音様のご利益というのはものすごいんです。

天慶5（942）年、浅草の歴史をしゃべるとこの年号が必ず出てきます。公雅は浅草寺の堂塔伽藍を全部寄進するんです。すごいお金がかかったと思うんですけどね。雷門もその時できたんです。できたといっても今とは場所が違って、駒形堂の近くなんですけどね。田

園数百町も寄進して、浅草寺は土地もいっぱいもらっちゃって、寺の格が上がります。応永縁起という鎌倉末期の縁起に書いてあります。

しかしそれから約100年後、長久2（1041）年12月、大地震でそれが全部燃えちゃうんです。あらかた倒れちゃう。その後10年間は再建できないで、浅草寺はかなり荒れていたそうです。その後、修行僧の寂円上人という人が出てきて、永承6（1051）年に寺が再建されます。それからすぐの承暦3（1079）年、また火災に遭う。浅草寺はそんな風に再建しては火災、また再建…というのがよくあったようです。しかもいったんこれくらいの格式で作ってしまうと、次にショボイものは作れないですね。けっこう立派な寺で続いていくことになった。平家の信奉がどれくらい厚いものだったかが、わかるわけです。

平家に続いて
源頼朝も観音様を信仰

その平家が敗れるのが石橋山の合戦です。源頼朝と平家が戦って、最初は頼朝が負けるんです。そこで千葉県に逃げる。そしてもう一度戦力を立て直そうとして隅田川陣営という陣を張るわけです。陣を張っている間、浅草より少し上流に石浜というところがありますね。そこに石浜城という城があって、城主は千葉氏という人だったんです。武将では



図2：駒形堂の境内にある戒殺碑

ありますけど、どちらかというところがありまして、地方の海産物ですとかを江戸へ持ってきて、商売もかなりうまくいった人らしいですな。北海道の方から利尻の昆布ですとか、いろんなものを持ってきて広めていく。そういうことをやってる人は船をいっぱい持っているでしょ。だから船を幅の広い隅田川に並べて、この船の上を渡ってこっちへ来いと頼朝に言うわけです。頼朝は喜んでとんとんと、川のこっち側にやって来る。それでどうもそのまま鎌倉に行かずに、一度練馬に行ってから鎌倉に行ったらいいですな。そこに何があったかはわかりません。情報が入ったのか、ひとつの作戦だったのか。それで無事、平家を追討するわけです。

その川を渡った時にですな、頼朝という人も観音様を信仰していたんです。だから川を渡ってすぐにお参りするわけです。すると戦に勝っちゃうんです。すごいでしょ、観音様のご利益は。

それで鎌倉幕府ができることになって、いろんなものを建てるために大工さんがいっぱい要る。浅草は大工さんのレベルが高い、宮大工の腕が良いってことで、ずいぶん浅草から鎌倉に連れて行っています。鶴岡八幡宮造営の時などは、ほとんど浅草の職人が手を貸しているんですな。あと後白河法皇の四十九日に百僧供養があったんですけど、その時も浅草寺からお坊さんが3人招かれています。だから源氏も平氏も、観音様を大変信仰していたということになります。

江戸時代、寛永寺ができて浅草寺は苦難の時代に…

話はいよいよ江戸時代に入るわけですね。慶長8(1603)年、江戸幕府が開かれた年。幕府の最初の祈願寺が浅草寺で、最初の菩提寺は芝増上寺です。そこに東叡山寛永寺というのを幕府が上野に作る。どうも京都の真似をしたんでしょうね。京都の御所から見て鬼門のところに比叡山延暦寺があるんで、江戸城の鬼門の方角に寛永寺を作る。東叡山というのは東の比叡山ですよ。比叡山に対して東叡山。向こうは元号が延暦の時に出来たんで延暦寺。こちらは寛永の時に出来たんで寛永

寺。それから琵琶湖の代わりに不忍池があるわけですね。そんなわけで寛永寺が大変な力を持つ、すると祈願所も菩提寺も寛永寺が一人で力を持ってしまふんです。

浅草寺も寛永寺の下に入ってしまった。そうすると浅草寺の支院から浅草寺の大僧正が出せなくなってしまうんです。寛永寺の大僧正がその役を兼ねたり、寛永寺の大僧正が決めた人になったりする。そうすると浅草寺の格が段々下になっていくんです。お賽銭も月に3回くらい分けて取りに来る。寛永寺は(徳川家の菩提寺で)あまりお賽銭が集まる場所じゃないですから、浅草寺の取りに来て、全額持ってっちゃう。浅草寺はお金が全然なくなるわけです。まあ、下の組織として少しはもらえるんでしょうけどね。一番大切なお賽銭を寛永寺に取られてしまうんだから、浅草寺にとっては非常に辛い時期だったということになる。

家康が亡くなって2年目に浅草に東照宮ができます。東照宮とは家康を祀ったお宮のことです。そうそう、浅草寺の二天門(図3)も実は観音様のための門じゃなくて、東照宮に向かうための門で、当時は随神門といったんです。だけど二度ばかり東照宮が火事になったために、もう浅草に東照宮は建てちゃいけないと言われる。そんなわけで東照宮は無いのに、神社系統の門のままなのはおかしいということで寺の門になるんです。増長天と持国天という2つの像が入って二天門と名前が変わるんです。随神門の時代は櫛磐間戸命(くしいわまどのみこと)などが入ってたんです。

図3：元は東照宮の門だった二天門



あと今の淡島様のところに、入口が両方塞がれていて渡っちゃいけない橋があるでしょ。石造りの橋(図4)。僕らが子供の頃はあの上で遊んでたんですけどね、あれが東照宮に行くための橋です。今は浅草寺の橋のようになってますけど。

亀戸の天神様でも鎌倉の八幡様でも、たいていあいうところには太鼓橋がある。上りにくいけど一生懸命上るんですよ。亀戸の太鼓橋が再建された時(文化10=1813年)は、上り初めは新橋の芸者衆がやることになりました。帯の締め方を変えましょうなんてことで変えたのが、今のお太鼓という結び方なんです。だから江戸時代中ごろの時代劇にはお太鼓結びは出てこないでしょ。

お賽銭が無くなったから浅草が盛り場になった

それで問題は何かって言うと、とにかく浅草寺はお金が無い。特にすごいのが、四万六千日のほおずき市の時なんか5日にいっぺん取りに来ていたらしいですから。東照宮がなくなったから、それでほっとけばいいんじゃない、江戸城の中にある東照宮に毎日2人ずつ来てお参りしろという制約もあって。

ある時、浅草寺の中でちょっとしたゴタゴタがありまして、寛永寺の法親王に相談したら、逆にお叱りを受けたりして。浅草寺の寺男、掃除や修理する人が何かの弾みで犬を殺しちゃって、それもお怒りに触れちゃうんです。生類憐れみの令が出来た原因はこれなんです。

そうなってくると、浅草寺をどうやって成り立たせていっていかって言うと、支院が頑張るしかなくなるんです。当時は浅草寺のことを本寺といった。ホンジ。どういう風に頑張るのかって言うと、支院の神様やなんかを改築したり、境内地が広いからいろんな人に貸したりするわけです。前に言った河竹黙阿弥も、正智院の境内地にある長屋に住んでいたんですよ。梅園院の隅を借りて茶店にしていたのが今の甘味店の梅園さんですね。参道については掃除しろよということも含めていろんなお店がポツポツ出来てきて仲見世という形態になる。境内のいろんなところに見世物がで



図4：この石橋も東照宮の橋だった

きたり、茶店ができたり、それぞれの支院が頑張ることによってどこにも負けにくいというの盛り場になっちゃうんです。

だってそうでしょう、お参りに来る人の数がすごいもの。江戸時代の早いうちに、今の明治座の辺りにあった旧吉原が移ってきて、新吉原として成立します。だいたい江戸時代の遊び場ってというのは信心を伴っていることが多いんですな。「どこ行くの?」「お伊勢さんにお参りに」「いいねえ、楽しみだね」なんつって。お寺参り、巡礼などにかこつけて遊びに行くことが多いんです。ですから観音様にお参りなんて言っても、観音様かなと思っていると、ずっと裏の方に突き抜けて行っちゃうなんてことがあるわけです(笑)。そういう意味で言うと遊びというのも大切なものなんですな。そう考えていくと、浅草寺の賽銭がなくなったからこそ、浅草が江戸一番の盛り場になっていくことになるわけです。面白いでしょ。

小学校よりキツイ? 課題は日記の提出

そればかりじゃなくて、寛永寺からは他にも締めつけがありまして、毎日日記をつけて届けろというのがあったんです。大変でしょ、小学校だってそこまで厳しくしないやね、夏休みに絵日記とかがあるくらいで。それが毎日毎日つけるんですな。浅草寺も自分のところの記録として取っておくから2枚ずつつける。

幕末になって、彰義隊の戦いがあった、上野が燃えてしまいます。浅草寺の日記も全部燃えちゃいました。上野にあったのは、で、



図5：広重の絵に見られる「志ん橋」

浅草寺の方で持っていたものだけがなんとも残っていて、これが有名な「浅草寺日記」というものなんです。浅草寺日記はこんな厚さがあるんです。枕にはちょっと高いかなというくらい。厚いから読むの大変なんです。この浅草寺日記がすごいのは普段の日を見ると、この日にスリが捕まったとか、迷子が何人出たとか、そんなことばかり書いてあるんです。でも特別な日を見ると、すごいことが一杯出てきます。123年分の日記ですからね、この日が一番の人出だった、歳の市がいかにすごかったかなんて出ているわけです。歳の市というのは今の羽子板市ですね、昔は羽子板市なんていわないですよ。納めの観音ともいいますね。12月17～19日ですが、一年最後の18日（観音様の縁日）が入る日程ですね。歳の市は正月の準備をする市で神棚やしめ縄、門松、まな板なんかも売られている。四万六千日っていうのはすごいですね、1回お参りしただけで4万6千回分がサービスになるんですから、なかなかないですよ。それから交渉事もよく出てきますね。…これは奥山の話をする時に取っておこうかな。あんまりしゃべりすぎるのも良くないね。

雷門が焼失したのは色っぽい三角関係から

雷門は最初は駒形堂の近くにあったって言いましたね。何度も何度も出来上がっては燃えている。寛永12（1635）年に再建して19（1642）年に燃え、慶安2（1649）年に再建

して明和4（1768）年に焼失とかね。最後は慶応元（1865）年に燃えて以来、今の雷門が昭和35（1960）年に建つまで無かったんですから。

慶応元年には、田原町で火事が起きたんですね。何で燃えたかっていうと、これは色っぽい話ですよ。三角関係のもつれて燃えたんです。お銀さんという女性がいて大変な美人だったそうです。それに対して田原町の紙屑屋の手代、新吉という人がおります。新吉・お銀、いいですね。そこに本所三笠町の旗本の次男坊が入ってきて、三角関係で揉めるんですね。燭台が倒れたかなんかしたんでしょうな。商売が紙屑屋ですからこんなに燃えやすいところはないわけで、あつという間に広がって。

調べてみますとね、最初のうちは風向きは寿町とか田原町、あっちの方に向いてたんです。それが回り込んで、火事の際は風が回るというのが一番怖いことなんです、どっちの向きに行くかわからないんです。それがなければ昔の破壊消火（家を壊して延焼を防ぐこと）というのでけっこう間に合ったりするんですけど。火が渦を巻く、風がさあつと回っていったん駒形堂の方に向くんです。で、あの当時は無かっただろうけど、今の神谷バ一の辺りを通して、あの辺から戻ってくるようにして雷門に火が移る。なんとか風神雷神を助けようと中に入って、持ってこられたのは風神と雷神の首だけ。木像というのは手とか首とか外して持ってけるんですけど、あとは全部燃えちゃったんです。だから今の風神雷神は首だけ古いものなんです。風の袋とか太鼓は明治になってからそれに合わせて作ったものです。

「雷門」と書いた提灯は昭和35年に今の門になってからですから。それまでは「志ん橋」という提灯でした。歌川広重の雪の浅草寺の絵に描かれています（図5）。この志ん橋という提灯は今、本堂にかかっていますが、昔は雷門のところにかかっていたそうです。新橋の屋根職人である屋根屋三左衛門という人が奉納して以来、志ん橋という提灯になったわけです。

どこから流れてきた？ 観音様の出自に諸説あり

…あ、もう時間になっちゃったね。まっ、いいか、しょうがないよね。5分ばかり延ばしてもいいですか？

観音様が隅田川に流れてくるには、理由がそれなりにあると思います。上流に何かがあったということでしょう。元はどこから出たんだって、いろんな説があるんですけど、隅田川の上流をいろいろ探るんです。こちら辺が勉強で一番面白いところですね。どこからどう流れてくるのが一番自然か、時代によって支流の作り方とか流れも変わっているから、そういうのも考えなくちゃいけない。

今の石神井川というのが上流からずっと流れてきて、王子のところを流れてきます。王子というところはかなり昔から、仏教伝来の百済から帰化した人がけっこういて、そこから観音様も流れてきたという説があります。もう一つは埼玉県飯能の岩井堂観音というのがあるんですけど。大河原峠というんですか、川の岸にそそりたった岩のところにあった観音様が、台風だか大火事だかで全部落ちてなくなったらしいんです。それが成木川を流れて、ずっといくと隅田川にたどり着く。飯能に龍間沢という字（あざ）があって、明治期の神祇官が書いた記録にも龍間沢の文字があるというんだけど、真相はどうかわかんない。こういうのはみんなわかんないんです。だってそのころ生きてた人はいないし、川の流れもどうなっていたかわからないから、厳密にはわかりません。

一つ、はっきり「無い」といえる説があ

ります。富山県東般若村というところの観音様が盗まれたっていう説があるんですけど、「盗まれたのはいつ？」って聞くと天正3（1575）年だって。観音様はもっと昔から浅草にあるよって言いたくなるよね（笑）。でも盗まれた観音様の寸法が1寸8分だって言い張ってるって言うんだけど、うちは1寸8分じゃありません。こういうことを検証していくと面白くはまっちゃうようになるんですけどね。まあそんなこともありまして、時間を5分オーバーしましたけど、

今来る時に見たら（2010年当時）、観音様の（工事の）テントが取れて、藁がきれいに見えました。昔（第二次世界大戦後の修繕）だったらあの瓦が一口百円だったそうです。寄付金がね。百万人講というのがあってね、かかった費用は4億円近いんですけども。浅草寺はそのうちの1億円だけを、瓢箪池を手放したりして工面したんです。あとの2～3億はいろんな人の寄進でできたわけです。

地震が起きてあの瓦が落ちると善男善女の皆さんがどれだけ被害者が出るかわからないということで、今回は軽いチタンの瓦に替えて。見た目には本瓦と同じような色をしていますし、これで怪我人が出なければ、観音様とご縁を結ぼうとする方が絶えず浅草に来て下されば、大変けっこうな大宮繕だったんじゃないかなと思います。

どうぞ浅草の観音様をこれからもよろしくお願いします。ということで、次回は浅草神社の歴史をお話したいと思います。浅草神社と三社祭の歴史は分けて話します。時間をかけてじっくり話しますので楽しみにしてください。よろしくどうぞ。ありがとうございました。

図6：絵巻物に描かれた浅草寺参道仲見世の賑わい



ウチのイチオシ!

鉢の木

杏あんみつ



1983年創業の甘味喫茶・鉢の木のイチオシは餡の甘さと杏の酸味が絶妙な「杏あんみつ」。女将が旅先で見つけて虜になったという安曇野の干し杏は大粒が3つも入っています。「一晩かけて戻してから水飴で煮るため、まるで桃のような果実味があふれます。子供時代に杏がおやつだった江戸子に好評です」と話すのは店主の井上達朗さん。浅草の街を堪能して、最後に「ああ、疲れた。ホッとすると」言いながら、鉢の木に立ち寄るお客様が多いそうで、そんな笑顔が店主の励みにもなっているようです。

お店の紹介は P.20 地図 P.14-C2

電 03-3843-6755 営 11:00~18:00

住 台東区浅草1-34-7 休 水曜日

<http://asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html>

よのや櫛舗

本つげとかし櫛



浅草周辺で1店舗しかないつげ櫛専門店。櫛目は髪長さやスタイルによって荒・中・細の3種類を用意。産後、抜け毛と髪質の変化で悩んでいた育児中のママから「よのやさんの櫛を使うようになって、髪がずいぶん落ち着きました」との嬉しい報告もあるそう。「職人の細かい手仕事がなくなっていく中、浅草で次の世代に伝えたい。お一人お一人に最適な櫛をお選び致します」と店主の斎藤悠さん。つげ櫛は水や湯で洗わず、年3~4回椿油で手入れをすると、飴色に変化して味わいが増す一生モノです。

お店の紹介は P.26 地図 P.14-A2

電 03-3844-1755 営 10:30~18:00

住 台東区浅草1-37-10 休 水曜日

<https://www.facebook.com/yonoyakushiho/>

デイジー

薄襠の札入れ・札束入れ



1997年に新仲見世通りに開店した袋物・小物・財布のデイジー。イチオシ商品は①1cmのマチ付き小銭入れ②3か所に仕切って金種分けできる札入れ③12枚入れられるカード入れ、が特徴で、何でも収納できるのにバッグの中でかさばらない優れモノ。牛革製で一つ一ついいいに手染めで彩色しています。「浅草は日本の皮革産業の中心地で、オシャレや実用性ととも、金運を考えてお財布にこだわる方が多く見受けられます。ぜひ直接手に取って、手造りの感触をお楽しみ下さい」と店主の大谷友孝さん。

お店の紹介は P.27 地図 P.16-C1

電 03-3847-8118 営 10:00~19:00

住 台東区浅草1-22-10 休 不定休

<http://asakusa.gr.jp/shop/deiji.html>

こばやし

もち明太子もんじゃ



1999年に浅草メトロ通りに開業したお好み焼ともんじゃの店「こばやし」。築地三宅水産より仕入れた海産物をはじめ、新鮮な野菜や具にこだわり厳選した素材を使用。豊富なメニューの中でイチオシは「もち明太子もんじゃ」。店主の小林譲二さんは「北海道より直送されたたらこを、自家製で少し辛目に仕込んだ明太子を使用しているため、明太子の味をしっかりと感じる事が出来ます。鰹節や鯖節、日高昆布などでしっかりと黄金だしとの調和を楽しんでください。…話を聞いただけでオイシそう!

お店の紹介は P.18 地図 P.14-C2

電 03-3847-6733 営 11:30~23:00 (土日祝は~22:00)

住 台東区浅草1-34-4 休 無休

<http://www.monja.co.jp/>



浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**
「竹馬やいろははほへとちりちりに」と刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿之助の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**
「くわんをんのいらか見やりつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。
- 15 旧五重塔跡碑**

浅草中央エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



中央部会員店

- 1 神谷バー
- 2 雷門 三定
- 3 もんじゃ こばやし
- 4 浅草うまいもん あづま
- 5 かと里
- 6 名代ら一めん 与ろみ屋
- 7 浅草 鮎よしだ
- 8 釜めし 麻鳥
- 9 炭火会席 蔵
- 10 お好み焼き 一丁目
- 11 和風居酒屋 魚菜
- 12 天ぷら 葵丸進
- 13 三角
- 15 喫茶クラウン
- 16 鉢の木
- 17 尾張屋
- 18 弁天山 美家古寿司
- 35 手焼きせんべい 和泉屋本店
- 36 手焼きせんべい 和泉屋鶴音通り店
- 37 浅草きびだんご あづま
- 38 諸国名産珍味 熊野屋
- 39 おもちゃのサワダ
- 40 婦人・子供服 東京モード
- 41 組紐 桐生堂
- 42 のれん べんがら
- 43 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
- 44 てぬぐい ふじ屋
- 45 あげまんじゅう 浅草九重
- 46 常盤堂雷おこし本舗
- 47 刃物 かね惣
- 48 舞扇 文扇堂雷門店
- 49 舞扇 文扇堂仲見世店
- 50 ミドリ屋
- 51 毛皮・婦人服 三ツ福ハシモト
- 52 よのや櫛舗
- 53 よ兵衛
- 54 和装履物 浅草辻屋本店
- 55 浅草の保健室ネオ
- 56 江戸金銀工芸もり銀
- 57 コマチヘア
- 74 村石電気工事

浅草北部エリア

●…食べる ●…買う



北部会員店

- 19 和風れすとらん若
- 20 レストランいんど・だもあれ
- 21 料亭 都鳥
- 22 すし処 清司
- 25 料亭 浅草田甫 草津亭
- 58 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
- 59 株式会社製菓川喜多

山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのぼせる。



- ### 西部会員店
- 23 常寿司
 - 24 天麩羅 中清
 - 26 居酒屋 TAKEYA
 - 27 すき焼 浅草今半
 - 28 どぜう飯田屋
 - 29 中国小菜 龍園
 - 57 コマチヘア
 - 60 デイジー
 - 61 渡辺眼鏡商店
 - 62 演劇・舞踊小道具 すずや
 - 63 足袋・祭用品 めうがや
 - 64 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
 - 65 ヤマダの家具
 - 66 今昔きもの龍巳(胡蝶)
 - 67 まつもと履物店

江戸下町伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたずまいの江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。
<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html>

久保田万太郎誕生の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。




- ### 南部会員店
- 30 シーフードレストラン 月見草
 - 31 ロシア料理 マノス
 - 32 うなぎ 初小川
 - 33 茶寮 一松
 - 34 三代目魚熊
 - 68 和菓子 龍昇亭 西むら
 - 69 生花 花鈴
 - 70 市川とうふ店
 - 71 木彫 宗舟
 - 72 書道用品 宝研堂
 - 73 ゴルフ グリーンジャケット
 - 75 ホテルサンルート浅草

駒形堂



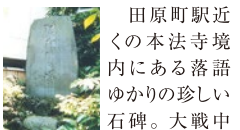
駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。
 勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村屋新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草槐の会・会員店紹介



1 神谷バー (雷門通り)

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14-C1



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400
住 台東区浅草1-1-1
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 火曜日

<http://www.kamiya-bar.com/>



2 雷門 三定 (雷門通り)

天ぷら・和食 地図 P.14-C1



創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとに変わる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200
住 台東区浅草1-2-2
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 無休

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



3 こばやし (浅草メトロ通り)

お好み焼き・もんじゃ 地図 P.14-C2



当店が自信を持ってお勧めするオリジナル新商品「焼もんじゃ」。お好み焼き?もんじゃ?焼そば?独特な食感を是非お試しください。その他、ボリューム満点、豊富なメニューを取り揃えてお待ちしております。

電 03-3847-6733
住 台東区浅草1-34-4
営 平日11:30~23:00
土日祝11:30~22:00
休 無休

<http://www.monja.co.jp/>



4 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り)

和食・寿司・甘味 地図 P.14-B2



なつかしい味の町下料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味...)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190
住 台東区浅草1-32-1
営 平日11:00~21:00
土日祝10:30~21:00
休 無休

<http://aduma.tokyo>



5 かとり (新仲見世通り)

食処・茶処 地図 P.14-C2



トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしるこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひとつをお過ごしください。

電 03-3841-7400
住 台東区浅草1-1-11(2F)
営 11:00~20:00(L.O 19:30)
休 木曜日

<http://asakusa-ryoin.jp/katori/>



6 名代らーめん 与ろゐ屋 (伝法院通り)

らーめん 地図 P.14-B2



醤油らーめん発祥の地、浅草昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共にお楽しみ下さい。

電 03-3845-4618
住 台東区浅草1-36-7
営 11:00~20:30
休 無休
<http://www.yoroiya.jp>



7 浅草 鮭よしだ (馬道通り)

寿司 地図 P.14-C3



「こだわらないのにこだわりたい鮭づくり」日本の旬を浅草で…全国津々浦々の旨い魚にこだわり、江戸前の仕事(煮蛤、鮭のづけ等)にこだわり、そしてお店よりお客様にこだわって頂きたい楽しい鮭屋です。

電 03-3845-7557
住 台東区浅草2-1-14
営 11:30~14:00
17:00~24:00
休 日曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yoshida.html>



8 麻鳥 (公会堂横通り)

釜めし・串焼き 地図 P.14-B2



新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島の子達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527
住 台東区浅草1-31-2
営 11:00~22:00(L.O 21:00)
休 無休

<http://asa-kusa.jp/asadori>



9 蔵 (公会堂横通り)

炭火焼会席 地図 P.14-B2



旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30~23:00(L.O 21:00)
休 無休

<http://asa-kusa.jp/kura>



10 一丁目 (雷門柳小路)

お好み焼き 地図 P.14-A1



新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 火水12:00~15:00/17:00~22:00
金17:00~22:00
土日祝12:00~21:00
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



11 魚菜 (雷門柳小路)

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14-A1



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もごございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00~23:30
日祝12:00~22:30
休 無休

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html>



12 葵丸進 (雷門通り)

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14-A1



「旬の肴に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:00~21:00(LO20:00)
休 第2・4月曜日
(祝日の場合は翌日)



<http://www.aoi-marushin.co.jp/>

13 三角 (浅草中央通り)

ふぐ 地図 P.14-A1



明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 13:00~22:00(LO21:00)
休 水曜日、正月、お盆は不定休あり



<http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm>

15 喫茶クラウン (観音通り)

喫茶・軽食 地図 P.14-C1



浅草駅からすぐの昔ながらの喫茶店。真心こめて淹れたコーヒーを是非ご賞味ください。モーニングセットはトーストセットとホットケーキセットの2種類。甘くてフワフワのホットケーキは人気の一品です。

電 03-3841-7500
住 台東区浅草1-2-13
営 8:00~18:30
休 火曜日(祝日の場合は営業)



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/crown.html>

16 鉢の木 (公会堂東通り)

甘味・喫茶 地図 P.14-C2



浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしるこ、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30~18:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html>

17 尾張屋

日本そば 地図 P.14-C1



百五十年の長きにわたり、地元浅草の方々、観音様を参拝の皆様に応え続けてきた老舗です。店内にある「浅草寺御用達」の看板は、浅草とともに歴史を歩む尾張屋のさきやかな誇りです。そば粉は信州産を中心に、最高の国産粉を使用。本かつお節のつゆ、特注の胡麻油で揚げた天ぷらは、コクがあってさっぱりとしたあと味でご好評をいただいています。

電 03-3845-4500
住 台東区浅草1-7-1
営 11:30~20:30
休 金曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/owariya>

18 弁天山 美家古寿司

寿司屋 地図 P.14-C3



創業慶応2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司タネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ツケ、酢め、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑固に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 月~土 11:30~14:30(LO 14:00)、17:00~21:00(LO 20:00)
日祝 11:30~18:30(LO 18:00)
休 月、第3日曜日



<http://bentenyama-miyakosushi.com>

19 和風れすとらん若 (浅草猿若町町会事務所側)

洋食レストラン 地図 P.15



江戸の名残の和風作りのお店で、洋食と色々なお酒をお楽しみください。特製レカソサンドと、のりカツロールはお子様からお年寄りまで喜んで頂けるお土産に大人気です。(不定休の為、必ずお電話で御予約下さい。)

電 03-3876-2500
住 台東区浅草6-20-2
営 17:00~21:00
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/waka.html>

20 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡)

レストラン 地図 P.15



昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
営 ランチ11:00~14:00、ディナー1日1組予約のみ17:00~22:00
休 日祝、第2・3土曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html>

21 都鳥 (浅草観音裏)

料亭 地図 P.15



江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、一緒に御趣向をお楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00~要予約
休 土日祝日



<http://asakusa-miyakodori.com>

22 すし処 清司 (浅草観音裏)

寿司 地図 P.15



すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鱈は逸品です。鱈はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 月~土 17:00~25:00
祝日 18:00~24:00
休 日曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html>

23 常寿司 (たぬき通り)

寿司 地図 P.16-C1



屋台の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お奨め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30~21:00 休憩なし
休 月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tsuneshushi>

24 中清 (オレンジ通り)

天ぷら会席 地図 P.16-C2



数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30~14:00、17:00~22:00 土日祝11:30~20:00
休 火曜日、第2、第4月曜日



<http://www.nakasei.biz/>

25 浅草田圃 草津亭 (観音裏言問通り)

料亭 地図 P.15



明治5年創業、江戸の歴史を今に伝える割烹料亭。この度10月に移転オープンいたしました。カウンター席での季節のおまかせ料理の他、本格会席をご用意しております。浅草芸妓もお待ちしております。

電 03-6802-3091
住 台東区浅草3-18-10
営 11:30~14:30(L013:30)
17:30~22:00(L020:00)
バータイム:21:00~23:00
休 不定休 <http://www.kusatsutei.jp/>



26 TAKEYA (浅草ひざご通り)

居酒屋 地図 P.16-B3



昔からひざご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00~23:00
土日12:30~14:00、
17:00~23:00
休 月曜日 <http://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya>



27 浅草今半 (国際通り)

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16-B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30~21:30
休 年中無休
<http://www.asakusaimahan.co.jp/>



28 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り)

どぜう料理 地図 P.16-B2



磨き込まれた籾敷きに胡坐をかいてどぜう鍋一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 11:30~21:30(L.0 21:00)
休 水曜日、祝日は前後振替
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html>



29 中国小菜 龍圓 (国際通り)

中華料理 地図 P.16-B2



心を込めた手造り料理!食で幸福感の味わい、「浅草に来て良かった、また来たい」、これが、龍圓のモットーです。本格中国料理からデザートに至るまで、心を込めて、お出し致します。

電 03-3844-2581
住 台東区西浅草3-1-9
営 平日12:00~14:00、17:30~21:00
日祝12:00~14:00、17:30~20:30
休 月曜日(祝日の場合は火曜日)
<http://www.ryuen1993.com/>



30 月見草 (浅草並木通り)

シーフードレストラン 地図 P.17-C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 12:00~15:00
17:00~22:00(L.0 21:00)
休 無休
<http://asa-kusa.jp/tsukimiso>



31 マノス

ロシア風レストラン 地図 P.17-B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあられ〜!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30~22:30(L.0 21:00)
ただし平日15:00~16:30準備中
休 火曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos>



32 初小川 (雷門仲通り)

鰻蒲焼き 地図 P.17-B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00~14:00、17:00~20:00
日祝17:00~20:00
休 不定休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsugawa.html>



33 茶寮 一松 (万太郎横町)

会席料理 地図 P.17-B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょう。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:00~22:30
休 月曜日・お盆・12月は不定休・年末年始
<http://www.ichimatsu.co.jp>



34 三代目魚熊

ふぐ・魚料理 地図 P.17-B1



魚屋から始まり、皆様に支えられて創業77年。1日も欠かさず築地で魚を手に取り仕入れています。魚のことでは妥協致しません。お客様の「旨い」の一言のため、感謝を込めて笑顔あふれる店作り励みます。

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 17:00~22:30
休 日曜・祭日
<http://uokuma.com>



35 和泉屋本店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-3841-5501
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30~19:30
休 木曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>



36 和泉屋観音通り店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



このところ、堅焼の人气が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30~19:30
休 木曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>





37 浅草きびだんご あづま (仲見世通り)

きびだんご 地図 P.14 - B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋ないさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 09:00~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html>

38 熊野屋 (観音通り)

諸国名産珍味 地図 P.14 - C1



ちょっと昔、よく食べたあの口が曲がるくらい塩辛い紅サケの切身、お茶漬け、お酒にぴったりの塩干ダラ、本場新島の本乾クサヤの干物等々が下町浅草でお求めいただけます。本場大分産の肉厚シタケも好評です。

電 03-3841-8089
住 台東区浅草1-19-10
営 10:00~18:00
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kumanoya.html>

39 おもちゃのサワダ (新仲見世通り)

玩具一般 地図 P.14 - C2



昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ペーゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

電 03-3842-7367
住 台東区浅草1-33-3
営 09:30~19:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html>

40 東京モード (新仲見世通り)

婦人・子供服 地図 P.14 - B2



婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアまで、最新デザインの商品をサイズ豊富に取り揃えております。お値段はサイズに優しい下町価格。普段のオシャレに、ダンスやカラオケの発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915
住 台東区浅草1-32-2
営 10:00~19:30
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokymode.html>

41 桐生堂 (浅草メトロ通り)

組紐、和雑貨 地図 P.14 - B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html>

42 べんがら (浅草メトロ通りと仲見世柳通りの角)

のれん 地図 P.14 - B2



専門店ならではの品揃えで、柄・サイズも豊富に約500種類。のれんは部屋の入口に掛ける以外にも、タペストリー、カーテン、間仕切りとしても使えます。きっとお部屋にぴったりの1枚が見つかります。

電 03-3841-6613
住 台東区浅草1-35-6
営 平日10:00~18:00
土日祝10:00~19:00
休 第3木曜日



<http://www.bengara.com>

43 和泉屋仲見世店 (仲見世通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30~19:30
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

44 ふじ屋 (弁天山側)

てぬぐい 地図 P.14 - B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 10:00~18:00
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html>

45 浅草九重 (仲見世通り)

あげまんじゅう 地図 P.14 - B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30~19:00頃
休 無休



<http://agemanju.jp>

46 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り)

雷おこしを主とする菓子 地図 P.14 - B1



今も変わらずぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 09:00~21:00
休 無休



<http://www.tokiwado.tokyo>

47 かね惣 (雷門柳小路)

刃物 地図 P.14 - B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00~19:00
休 不定休



<http://www.kaneshoh.com>

48 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多様な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>



49 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

50 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14 - B2



舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:30~18:00
休 毎月第2・4火曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html>

51 ミツ福ハシモト (新仲見世通り)

毛皮、革、婦人服 地図 P.14 - A2



当社は、大正3年毛皮専門店として浅草千束で創業。昭和20年に現在地に移転し、毛皮を中心に皮革製品、夏は麻・綿素材、冬はシルク・ウール・カシミア等の天然素材を活かした婦人既製服を扱っています。

電 03-3844-3441
住 台東区浅草1-30-6
営 10:30~19:30
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hashimoto.html>

52 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14 - A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30~18:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html>

53 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14 - B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 9:00~18:00
休 不定休



<http://www.agemochi-yohei.com/>

54 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14 - B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きた鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00~19:00
休 無休



<http://www.getaya.jp/>

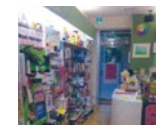
55 浅草の保健室ネオ (馬道通り)

クスリ 地図 P.14 - C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 9:30~19:00
土9:30~18:00
休 日曜日



<http://www.neo-ph.com>

56 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り)

銀製品全般 地図 P.14 - A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリー等自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 10:30~18:30
休 無休



<http://www.asakusamorigin.com>

57 コマチヘア (第一店・新仲見世通り、第二・三店・仲見世通り) かつら・頭飾品 地図 P.14 - B2, P.14 - B3, P.16 - C1



大正14年創業以来、職人気質の「かつら」づくりに徹しています。日本髪から男女洋かつら、ヘアピース、余興かつら、かんざしまで、豊富に取り揃えております。舞台化粧品も、お気軽にご相談ください。

電 03-3841-8191 (第一店)、5523 (第二店) 7434 (第三店)
住 台東区浅草1-28-3 (第一店)、1-31-1 (第二店) 2-3-1 (第三店)
営 10:30~19:00 (第一店) 平日9:30~18:00、土日祝日9:30~19:00 (第二店) 9:30~18:00 (第三店)
休 無休 <http://www.komachi-hair.co.jp/>

58 宮本卯之助商店本店 (吉野通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 9:00~17:00
休 土日祝日



<http://www.miyamoto-nosuke.co.jp>

59 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきろうと、「浅草川喜多」の名前で洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00~17:00
休 日・祝日(土曜日不定休)



<http://www.s-kawakita.co.jp>

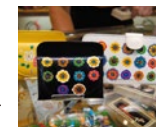
60 デイジー (新仲見世通り)

バッグ、小物 地図 P.16 - C1




魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリカラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入れも個性的な貴女にピッタリ特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118 (FAX共通)
住 台東区浅草1-22-10
営 10:00~19:30
休 不定休 2ヶ月に1回ほど




<http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html>

61 渡辺眼鏡商店 (たぬき通り) めがね 地図 P.16-C1




創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30~19:00
休 火曜日(祝日の場合は営業)
<http://www.watanabemegane.com>




62 すずや (西参道商店街) 演劇、舞踊小道具 地図 P.16-C2




時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798
住 台東区浅草2-7-13
営 10:00~18:00
休 火曜日
<http://www.asakusasuzuya.co.jp/>




63 めうがや (言問通り) 足袋、祭用品 地図 P.16-C3




「めうがや」と書いて「みょうがや」。旧仮名で「どぜう」を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:00~19:00
休 水曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya>




64 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り) 太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.16-B1




文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 9:00~18:00
休 年中無休
<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>




65 ヤマダの家具 (合羽橋通り) 家具・内装工事・リフォーム 地図 P.16-A2




飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 9:00~17:30
休 日曜・祝日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada>




66 今昔きもの 龍巳(胡蝶) (オレンジ通り・伝法院通り角) 着物 地図 P.16-C2




胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30~19:00
休 無休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html>




67 まつもと履物店 (浅草ひさご通り) 和装履物専門店 地図 P.16-B3




自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 10:00~20:00
休 火曜日
<http://www.wasou-hakimono.com/>




68 龍昇亭西むら (雷門通り) 和菓子司 地図 P.17-C2




看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:00~20:00
休 不定休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>




69 花鈴 (雷門仲通り) 生花店 地図 P.17-B2




浅草の催時に合わせた商品を販売しています。また、お持ちのパソコンからお花の注文が出来ます。(http://www.fsonline.jp) 御注文の際にはプレミアムコード(KBA08900)を是非入力して下さい。

電 03-3845-1187
住 台東区雷門2-8-4
営 09:00~20:00
日祝09:00~18:00
休 不定休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hanasuzu.html>

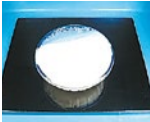


70 市川とうふ店 (万太郎横町) 豆腐 地図 P.17-B2




浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなく「おぼろ豆腐」が人気です。水にまったくくさらない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00~19:00
13:00~16:00は休憩
休 水曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>




71 宗舟 (浅草消防署手前右入る) 木彫刻 地図 P.17-B2




初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 10:00~17:00
休 日曜日・祝日
<http://so-syu.jp>




72 宝研堂 (江戸通り駒形どぜう裏) 書道用品専門店 地図 P.17-B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試しください。

電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 平日9:00~18:00
第1・3日曜10:00~17:00
休 第2・4・5日曜、祝日
<http://houkendo.co.jp>



73 グリーンジャケット

こだわりのゴルフ用品 地図 P.17・B1



梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中)他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-3847-0871
住 台東区浅草3-12-5
ロワール浅草寿201号
営 10:00~18:00
休 日曜日・祝日
http://www.green-jacket.co.jp/



74 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P.14・B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00~17:00
休 日曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html



75 ホテルサンルート浅草 (田原町駅前・国際通り沿い)

ホテル業 地図 P.17・A2



田原町駅から徒歩1分!特に出張のお客様には、気取らず、それでいて質の高いサポートを第一に考えております。また、お食事とお飲み物は24時間"jonathan's"が提供致します。装い新たになったお部屋を是非お試しください。

電 03-3847-1511
住 台東区雷門1-8-5
営 チェックイン14:00
チェックアウト11:00
休 無休
http://www.sunroute-asakusa.co.jp/



浅草文化観光センター



台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。開館時間午前9:00~午後8:00。(年中無休)

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2~3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまな相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

☐ TEL:03-3842-5599 FAX:03-6673-3046 ☐ ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。



えんじゅ
浅草槐の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。